

2021年3月8日

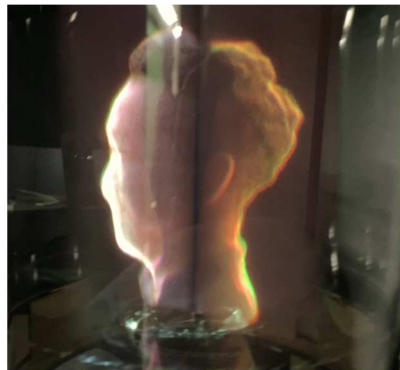
リコー、現実空間に全方位映像を映し出せる投影装置を開発 ～ デジタルサイネージ用途で、「WARPE」ブランドとして市場探索を開始 ～

株式会社リコー(社長執行役員:山下 良則)は、新事業創出に向けたプログラム「TRIBUS 2020」において、当社の社内チームが、現実空間に全方位映像を映し出すことのできる投影装置を開発したことをお知らせいたします。これは、装置の真下から上に向けて光を投射し、独自開発の特殊な回転スクリーンに当たった光の残像で立体化させた映像(以下、立体映像)を表示させるものです。現在実用化に向けて開発を進めており、現時点では、人の頭のサイズ(直径 200mm 高さ 250mm)で立体映像のカラー動画表示を実現しています。これまでは、特殊な眼鏡や、専用のヘッドセットを通して立体映像を見るものが大半でしたが、今回の装置では、全方位から裸眼で立体映像を見ることが可能になります。

本投影技術による立体映像の認知度拡大と市場性の検証をするため、まずはデジタルサイネージ用途で、2021年3月から「WARPE」(ワーपीー)ブランドとして、ビジネスパートナーを募り、市場探索を開始します。



装置イメージ図



投影イメージ



コロナ禍でEC化が急速に進み、小売店やショールーム、展示会などのリアルな場所では、集客力向上のための新たな価値の創出が課題となっています。このような状況を受け、リアルな場所は、物を展示・販売するだけの場から、デジタルと融合した“体験を提供する場”への急速な変化が求められています。リコーが今回開発した装置は、世界的に急増している仮想空間の三次元デジタルコンテンツを、現実の世界に同化するかのように立体投影し、顧客とコミュニケーションをすることで、新たな体験価値を提供し、ワクワクできる場所へと進化させることに寄与します。

本投影装置は、装置の真下から上に向けて光を投射し、独自開発の特殊な回転スクリーンに当たった光の残像で立体映像を表示させる体積走査型の投影装置です。これにより、全方位から立体映像を見ることが可能です。開発に当たっては、三次元酔いを起こさずに、現実空間に実在するような完全立体表示を実現することにこだわりました。映像は現時点で約 3.7 億ボクセル(三次元像を構成する画素

株式会社リコー <https://jp.ricoh.com/>

お問い合わせ先 株式会社リコー 広報室 TEL : 050-3814-2806(直通) E-mail : koho@ricoh.co.jp

の数)のカラー動画立体表示を実現しています。(参考:フルハイビジョンの平面映像では二次元像を構成する画素の数は約 207 万画素)

今後、2021 年度中に試作機による実証実験や試験的な稼働を始め、2022 年度中の実用化を目指します。さらに将来的には、働く場における立体映像によるリモート会議や立体構造物のシミュレーションやモデリング支援、教育分野における立体構造把握支援、エンターテインメント、家庭用バーチャルアシスタントなど、幅広い用途で、デジタルコンテンツを使ったコミュニケーションの高度化に貢献してまいります。

なお、当システムで投影した映像や、公開イベントは、以下サイトにおいて順次お知らせいたします。

WARPE ブランドサイト:<https://warpe.rioh>

Facebook サイト:<https://www.facebook.com/WARPE.JP/>

■ 関連リンク

社内起業家とスタートアップを支援する事業共創プログラム「TRIBUS 2020」のウェブサイト

<http://accelerator.rioh/>

* 会社名および製品名は、それぞれ各社の商号、商標または登録商標です。

| リコーグループについて |

リコーグループは、オフィス向け画像機器を中心とした製品とサービス・ソリューション、プロダクションプリンティング、産業用製品、デジタルカメラなどを世界約200の国と地域で提供しています。(2020年3月期リコーグループ連結売上は2兆85億円)。

創業以来80年以上にわたり、高い技術力、際立った顧客サービスの提供と、持続可能な社会にむけて積極的な取り組みを行っています。

EMPOWERING DIGITAL WORKPLACES - 人々の“はたらく“をよりスマートに。リコーグループは、さまざまなワークプレイスの変革をテクノロジーとサービスのイノベーションでお客様とともに実現します。

詳しい情報は、こちらをご覧ください。 <https://jp.rioh.com/>